

第 39 回国際 P2M 学会春季研究発表大会結果報告

大会実行委員長 東京都市大学 岡田公治
大会実行副委員長 東京都市大学 佐藤真久

1. はじめに

2025 年 4 月 19 日(土)、東京都市大学横浜キャンパスにて、「サステナビリティ実現に向けたイノベーションと P2M」を大会テーマとした第 39 回国際 P2M 学会研究発表大会が開催されました(図 1)。今回の大会もハイブリッド形式で実施されました。

2. 実施内容

2.1. 研究発表

今回は、A 会場「P2M に基づく社会実装」5 件、B 会場「P2M の組織/業務への応用」5 件、C 会場「P2M を支える手法」4 件、計 14 件の研究発表が行われ、活発で有益な討論や意見交換が行われました(図 2~4)。それら 14 件の発表の中から、荒川正頼氏(千葉工業大学)、日出間健氏(東京都市大学/戸田建設株式会社)、菊地剛正氏(千葉商科大学)の 3 件が発表奨励賞を受賞しました。



図 2 A 会場での発表の様子



図 3 B 会場での発表の様子



図 4 C 会場での発表の様子(その 1)



図 5 C 会場での発表の様子(その 2)

2.2. 総会

午後からは、総会が開催されました。亀山秀雄会長、久保裕史副会長、白井久美子副会長、山本秀男事務局長が登壇され、2024 年度の活動成果報告、並びに 2025 年度の活動計画等が審議、報告されました。2024 年度学会表彰の発表があり、山本秀男氏が学会賞 (図 7) を、谷口邦彦氏が学会活動功労賞 (図 8) を受賞しました。



図 6 総会の様子



図 7 学会賞受賞の様子



図 8 学会活動功労賞受賞の様子

2.3. 開会挨拶・開催校挨拶

午後の部に先立ち、亀山秀雄会長から開会挨拶、東京都市大学環境学部飯島健太郎学部長から開催校挨拶が行われました。

2.4. 基調講演

本大会では、2 件の基調講演が行われました。

東京大学 大学院 梅田靖教授による 1 件目の基調講演「サステナブルイノベーションを実現する総合的アプローチ～サーキュラー・エコノミーを例題として」では、サステナビリティを実現するためのイノベーションの観点から、VMS (Vison-Meso-Seeds) モデルが紹介され、ビジョンとシーズを繋ぐ Meso 領域がイノベーションを成功させる鍵であること、Meso 領域を 1 社で担うことは困難であり、価値共創エコシステムの構築が必要であること等が、述べられました (図 9)。



図 9 基調講演 1 (梅田靖教授)

東京都立大学 大学院 下村芳樹教授による
2 件目の基調講演「サステナブルイノベーションの鍵～アブダクションと共感～」では、サステナブルなイノベーション実現の観点から、理念的設計（プラトニックデザイン）と呼ばれる設計思想の必要性、アブダクティブな思考の重要性、アブダクションの効果を最大限に発揮するためには「共感」が不可欠であること等が述べられました（図 10）。



図 10 基調講演 2 (下村芳樹教授)

2.5. パネルディスカッション

基調講演者の梅田靖教授、下村芳樹教授に、アイロボットジャパン合同会社 代表執行役社長の挽野元氏、環境再生保全機構 (ERCA) 社会実装支援コーディネーターの亀山秀雄氏を、パネリストに加え、本稿筆者ら（岡田公治、佐藤真久）の司会進行によるパネルディスカッション「サステナビリティ実現に向けたイノベーションを促進するには、何か必要か？」が開催されました（図 11）。



図 11 パネルディスカッションの様子

2.6. 閉会挨拶

本大会の締め括りとして、白井久美子副会長から閉会挨拶、次回大会開催校である千葉工業大学 新谷幸弘教授から次回大会開催案内が行われました。

2.7. 意見交換会

閉会挨拶の後、会場を学生食堂に移し、意見交換会が開催されました（図 12）。意見交換会では、立食形式での飲食を楽しみながら、多くの参加者が、自由闊達に意見交換や討論を行うことができました。



図 12 意見交換会の様子

3. おわりに

大会実行の企画・運営の大役を賜り、今回は 2 度目の開催であるものの未だ未だ不慣れな状況の中、多くの人々に支えられ、大会を完遂することができました。ご登壇頂きました基調講演者、パネリストの皆さま、最新の研究成果を発表頂きました研究発表者の皆さま、大会に参加頂き議論を深めて頂きました全ての参加者の皆さま、貴重な経験の機会を与えて頂きました国際 P2M 学会理事の皆さまに、心より感謝申し上げます。

2025 年 6 月 10 日受領